

1. 評価結果概要表

平成 21年 4月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	2072500842
法人名	社会福祉法人 ぼけっと
事業所名	グループホーム ぼけっと
所在地	長野県下伊那郡喬木村15816-1 (電話) 0265-33-5035

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年4月7日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(21年 2月 18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	13人 常勤6人 非常勤7人 常勤換算9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (2月 18日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3			要介護4	4名	
要介護5	2名		要支援2		
年齢	平均 81.3 歳	最低	67 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦医院、すぎがら医院、西島歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯田盆地を南流する天竜川の河岸段丘に立地する喬木村の田園風景と新旧の住宅が併設する伊久間地区にグループホームぼけっとはある。ぼけっとは、病院から已む無く出されてしまう人々を救おう、というあつい思いで、全国で最初のNPO法人として飯田・下伊那地域の女性が中心となって立ち上げ、今日の社会福祉法人に至っている。阿島の大藤、いちご狩り等、豊かな自然と人情味あふれる村民の力により歴史と伝統を継承している地で、中央アルプスと天竜川、その地で暮らした人々にとって忘れられない風景の中で、地域社会とつながり、利用者一人ひとりに寄り添い、笑顔で穏やかな生活が出来る場所になるよう支援している。職員は自分の素直な気持ちを充分に言えて、聴いてもらえる管理者がいて、職員間のつながりは良好であり、それは介護計画や現場のケアに有効的に働いている。庭には花や野菜があり、利用者が水遣りをし、洗濯物が干してあり、普通の家の当たり前の風景が懐かしさを醸し出して展開されていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題は6項目あり、全項目とも具体的改善に向けて取り組み、3項目が改善された。残りの項目である運営推進会議への代表以外の家族の出席依頼、家族会でのご家族同士の話し合いの場を設ける、夏場の3回の入浴は21年度に実現することを伺った。夜間入浴については長期検討課題としている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、その意義を伝えると共に全職員で取り組み、自己評価の結果は今後のサービスの質の向上のため具体的改善への話し合いをし、実現に向けて取り組んでいる。事業所全体という視点でなく、利用者一人ひとりにとって、どんなことが必要なのかという観点から改善を考えている姿勢が伺えた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年5回開催され、事業所の事業内容や利用者の日々の活動状況が報告されている。外部評価の結果も全て周知、理解されている。委員からの意見等が少ないが、課題を決めて意見等を求める、事業所から地域の協力要請や相談をするなど、委員自身が関わり易い内容を盛り込んで、意見や思いを言えるよう工夫することを求めます。又、地域の協力を得易くするため、委員に地域を動かすことの出来る地区の代表者(区長等)を加えることを望みます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>1か月間の様子や金銭残高について、毎月の利用料の請求に併せて報告され、さらに3~4か月毎に田園便りを発行、訪問時に日々の様子の写真アルバムを見てもらうなどご家族との連携は良好である。意見等は少ないが、家族会で家族同士が話し合う機会を設けることや日々の事業所の生活環境へはテーマ(清掃・整理整頓・飾り付けなど)を提示して意見等を求めるなどの工夫を期待します。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、清掃等の自治会活動に参加し、地域住民からの野菜等のおすそ分け、散歩時に気軽に声を掛け合うなど、地域とのつながりを大切にしている。法人の「ぼけっとまつり」は伊久間地区にとっても大きな行事になりつつあり、地域づくりの一環にもなっている。講演会の開催、実習生の受け入れ、中学生との交流、大正琴等の地域のボランティアの受け入れなどの地域貢献もしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針として「地域社会とのつながり」を大切に、事業所独自の理念として「笑顔で穏やかな生活」「良く見て聞いて、寄り添う介護」を掲げ、玄関に入ってすぐの事務所の入り口に見易く貼り出されていた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はこれまで、運営方針と同じであったが、全職員で話し合い、分かり易く、印象に残り易い文言にし、日々の事業所の目指す具体的な介護の姿勢を謳い上げ、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	空き缶拾いや水路清掃などの伊久間地区の活動に自治会員として参加し、地域との関係性を大切にしている。中学生が花を届けたり、音楽会への招待もあり、近所からは花や野菜のおすそ分け、散歩時に気軽に声を掛け合うなど地域に支えられ、地域と共に暮らしている。法人主催の「ぼけっとまつり」は伊久間地区にとっても大きな行事になりつつあり、地域住民の多くの方の参加もあって、地域への事業所の定着が伺えた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員にその意義を伝えると共に全員で取り組んだ。自己評価の結果は今後のサービスの質の向上のため具体的な改善への話し合いをし、実現に向けて取り組んでいる。外部評価の結果は、改善した項目が多いが、残った項目は21年度に実現するという力強い言葉を伺った。		

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は年5回開催し、事業計画・予算、利用者の日々の活動状況が報告されている。外部評価は全委員に配布し、改善課題について周知され、開かれた事業所作りと具体的改善に取り組もうとする事業所の姿勢が伺えた。ご家族は代表1名の参加であるが、21年度からは他のご家族にも通知し、出来る限り参加していただくこととした。</p>		<p>構成委員に地域を動かすことの出来る地区の代表者(区長等)を加えることにより、地域からの支援や協力を得易いようにすることが望ましい。又、委員が積極的に意見や要望を言えるような会議となるよう、課題を決めて意見を求めるなどの工夫を期待します。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りを配布したり各種の相談に応じてもらったり、村長や住民課の係長が訪問したりするなど良好な連携が図られている。包括支援センターとも情報を共有したり、市町村のパイプ役を果たしてもらうなど良いつながりを持っている。住民課の係員にも事業所の現場を周知していただくために、招待する機会を設けることも一考かと思われる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1か月間の様子や金銭残高を、毎月の利用料の請求に併せて報告し、行事風景や職員の異動等が伝えられている田園便りを3～4か月毎に発行している。訪問時には事業所での暮らしぶりの写真アルバムを見ていただいている。毎月の報告にその月のベストショットの写真を添えるのも一考かと思われる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や思いを遠慮なく言ってもらえるよう、ご家族に周知している。苦情等については受付窓口を定期的にお知らせしている。ご家族からの意見等は少ない。</p>		<p>苦情や意見は言いにくいものである。年1回行う家族会を活用し、ご家族だけの話し合いの場を設け、認知症介護に携わった者だから分かるというご家族同士のつながりを作ると共に、事業所を支える一員としてのご家族ということを鮮明にして、テーマを決めて意見等を言ってもらう体制作りを期待します。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事務員、看護師、管理者が緊急時には介護業務に携わるなど職員の協力関係が良く、意見等も素直に言えるなど職場内の人間関係が良好であり、離職等を最小限に抑える努力をしている。新規に採用された職員は利用者丁寧に紹介し、利用者温かく受け入れられるよう努めている。</p>		

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修係を設け、職員の要望を聞いて年間の研修計画を立案し、事業所内の研修を毎月行っている。内容も口腔ケア・感染症・食中毒・老いと病気など多岐に亘り、職員の質の確保に向けた育成が充分に出来ていた。外部研修は希望により出席させ、全体会で報告の場を設けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2か月に1回開催される、飯田・下伊那地域グループホーム相互評価検討会議に出席し、事例研究を主とした情報の交換を行っている。事業所同士は新規職員等の研修の場として活用しあい、相互評価にまでは至っていない。今後は事業所間の交流により、良いところ、工夫しているところを見つけ合うなどの取り組みが望まれる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>1～2日の日帰り体験をしていただき、利用者や職員、事業所の雰囲気に馴染んでもらいながら納得して入居していただけるよう対応している。居宅のケアマネージャーに話を聞いたり、利用者やご家族からも思いや希望を十分に聞いて利用者にとって今、何が必要なか検討して入居に至るように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を人生の先輩として意識することを根底に持って、利用者の持っている知恵(野菜作り・風習の知識・子育てや人間関係のコツ等)を引き出して、支えたり支えられたりする関係作りをしている。喜怒哀楽に共感し合えない場面もあるが、いろんな職員が関わりながら心の繋がりが持てるよう取り組んでいる。</p>		

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情から思いや意向を把握するように努めている。入居の時に記入していただく生活歴などのシートやご家族、親戚、知人からの情報を活用して、これまでの暮らしぶりを把握し、今、利用者にとって何が必要かを発見するよう取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当制を行い、ケアマネージャーと担当職員が中心となり介護計画の原案を作成し、職員全員で話し合い、計画書を作成している。事前に利用者やご家族から思いや意向を聴き、主として利用者の達成可能な小さな目標を探して介護計画に反映させている。ご家族には介護計画を面会の折に説明し、了解を求めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の設定期間毎に評価、見直しをしているが、1か月に1回は担当職員を中心として、計画の実施状況や効果などの情報を把握して見直しの検討をしている。心身の状況の変化に応じて臨機応変の見直しも行われている。担当制をとっているが、全職員でケアすることが基本であるので、職員間の情報の共有化を徹底している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師を職員として配置した医療連携体制があり、通院の付き添いや送迎など必要な支援は柔軟に対応し、入院の回避、早期退院への支援など事業所の多機能性を活かした取り組みが行われている。</p>		

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のこれまでのかかりつけ医と事業所の協力医療機関が同じ方が多く、医療に関する協力が得易く、中には往診を依頼しているケースもある。基本的には受診はご家族の付き添いになっているが、ご家族の都合によっては職員が代行している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の対応指針は整っており、入居時に十分に説明し、同意書を作成している。事業所でのターミナル対応はこれまでに2人いて、その経験により職員は対応への認識の共有化が出来ている。今後利用する方にとっても大きな関心事であるので、事業所の基本姿勢を運営推進会議等で説明する機会を設けることが望ましい。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の採用時にプライバシーの尊重について充分説明し、さらに個人情報の保護についての研修会を行うなど職員の意識向上を図っている。又、日々の尊厳を損ねるような言動については職員同士で注意し合うように努めている。個人の記録は鍵の掛かる保管庫に収納しておくことが望ましい。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日頃の様子から好みや関心事を察するようになり、本人の意思表示をじっくり時間を掛けて待つなど利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者を息子さんがお墓参りに連れて行き、外食もしてきたことを伺い、その人の希望に応じた支援が実現されていることを感じた。</p>		

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来る範囲で調理、片付け、洗い物などを利用者と一緒に行っている。畑で取れた野菜やおすそ分けの野菜も利用し、2日に1度のAコープでの食材の買出しなど食事の一連の作業を利用者と一緒に行い食事が楽しいものになるよう支援している。献立は利用者の希望を取り入れるなどの配慮がされていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月～土・1日3～4人が利用し、週2回は入浴できるようにしている。夏場はさらに夕方、シャワー浴をする利用者もいる。菖蒲湯・ゆず湯など季節感を取り入れた入浴や希望に応じて同性職員の介助などの配慮もしている。21年度には週3回の入浴を実施するという力強い言葉を伺った。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	干し柿作り、草取り、大根や白菜の漬物作りなど昔取った杵柄を發揮してもらい利用者が主役となって活躍できる場を作っている。調査日の帰り、庭の花に水遣りをしている利用者が2人いたが、いかにも自分の家で当たり前に行っているような姿に会い、家での楽しみが事業所でも継続できていることが感じられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望に応じて散歩、買い物、外食に出掛けている。事業所の近くに天竜川の堤防があり、車の通行量も少なく、散歩コースには最適であった。元善光寺、坐光寺、開善寺など花見や見学に適した場所が周辺にあり、利用者も楽しみながら外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵は掛けてなく、職員も鍵を掛けることの弊害を理解している。ドアを開けると音楽が流れたり、全居室を見渡せる場所で待機するなど安全面に配慮して自由に暮らしていけるよう支援している。		居室の窓の鍵は自由に開閉でき、これまでに離所の経験は1件だけであるが、利用者の安全を確保することも使命であるので、離所した場合の対策として、地域住民の見守りや捜索への協力を運営推進会議等で要請することを期待します。

グループホームほけっと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の防災訓練の実施、災害対策マニュアルの作成、避難経路図の貼りだしなど災害への対応は充分に出来ていた。地域の総合防災訓練の際は、地域住民の方に事業所内を見学してもらい、災害時の協力を依頼した。火災報知器・非常通報装置は、21年度に、スプリンクラーは24年度までに設置することを伺った。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量と食事はチェック表により把握すると共に全職員への共有化を図っている。献立は職員である栄養士が利用者の希望を聞いて栄養バランスやカロリーに配慮して作成され、さらに高血糖者の個別の食への支援も行われていた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所、食堂、居間が一体となっており、調理の匂いや音がして家庭にいる雰囲気があり、露出した梁や下壁が木製であり温かみを感じられ、壁には品の良いジグソーパズルの絵が飾られ、穏やかで落ち着いた、居心地良く過ごせる場所になっていた。菖蒲湯、ゆず湯、流しソーメン、おはぎ作りなど五感の刺激や季節感を味わえるよう意識的な工夫がされていた。食堂から見える洗濯室のあり方は、ご家族や運営推進会議の委員等の率直な感想を聞いて検討することを求めます。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は採光も良く、窓からは中央アルプス、天竜川、田畑、家並が眺められ、室内には位牌、テレビ、タンス、写真等の馴染みの物が置かれ我が家にいるような雰囲気の中で暮らしている様子が伺えた。棚や梁など清掃の行き届かない所もあったので、清掃日を決めて実施するなど清潔感を保つ工夫をすることを求めます。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。